

畫
序
珍
貝
鑑

千 4
1077
2



明
1077
2

論語 宋編卷之二 圖錄

第十六

李太白

第十八

林和靖

第十九

金荅石

第廿一

龜武

第二十

孟子

第二十二

魯公

第二十三

張良

第二十四

賈寫

二十六

司馬遷

二十七

王笑

二十八

孔叡

二十九

高山四皓

卷之二十一

金

二十九 七賢

龍門

七賢

三十

瓢簾推轎

三十一

陶淵明

三十二

孫明府

三十三

孫明府

三十四

孫明府

三十五

孫明府

三十六

孫明府

第廿

李太白

李太白。酒とゆく時と被り。恒よ沈醉きて。石
破りて人す。技らう。游と山を。庵を。山よ。時
は。うり。宿。下。三。是。銀。河。落。九。丈。と。
い。沈。醉。と。八。雲。庵。よ。
い。沈。醉。と。八。雲。庵。よ。
い。沈。醉。と。八。雲。庵。よ。
い。沈。醉。と。八。雲。庵。よ。
い。沈。醉。と。八。雲。庵。よ。

李太白。酒とゆく時と被り。恒よ沈醉きて。石
破りて人す。技らう。游と山を。庵を。山よ。時
は。うり。宿。下。三。是。銀。河。落。九。丈。と。
い。沈。醉。と。八。雲。庵。よ。
い。沈。醉。と。八。雲。庵。よ。
い。沈。醉。と。八。雲。庵。よ。
い。沈。醉。と。八。雲。庵。よ。



卷五

林和靖

林和靖詩
平生不愛之養林
菊鳥と修業
白り又月と
獨花ふんいはやうすよ
けれどひかづけ
て撥とひハ梅も

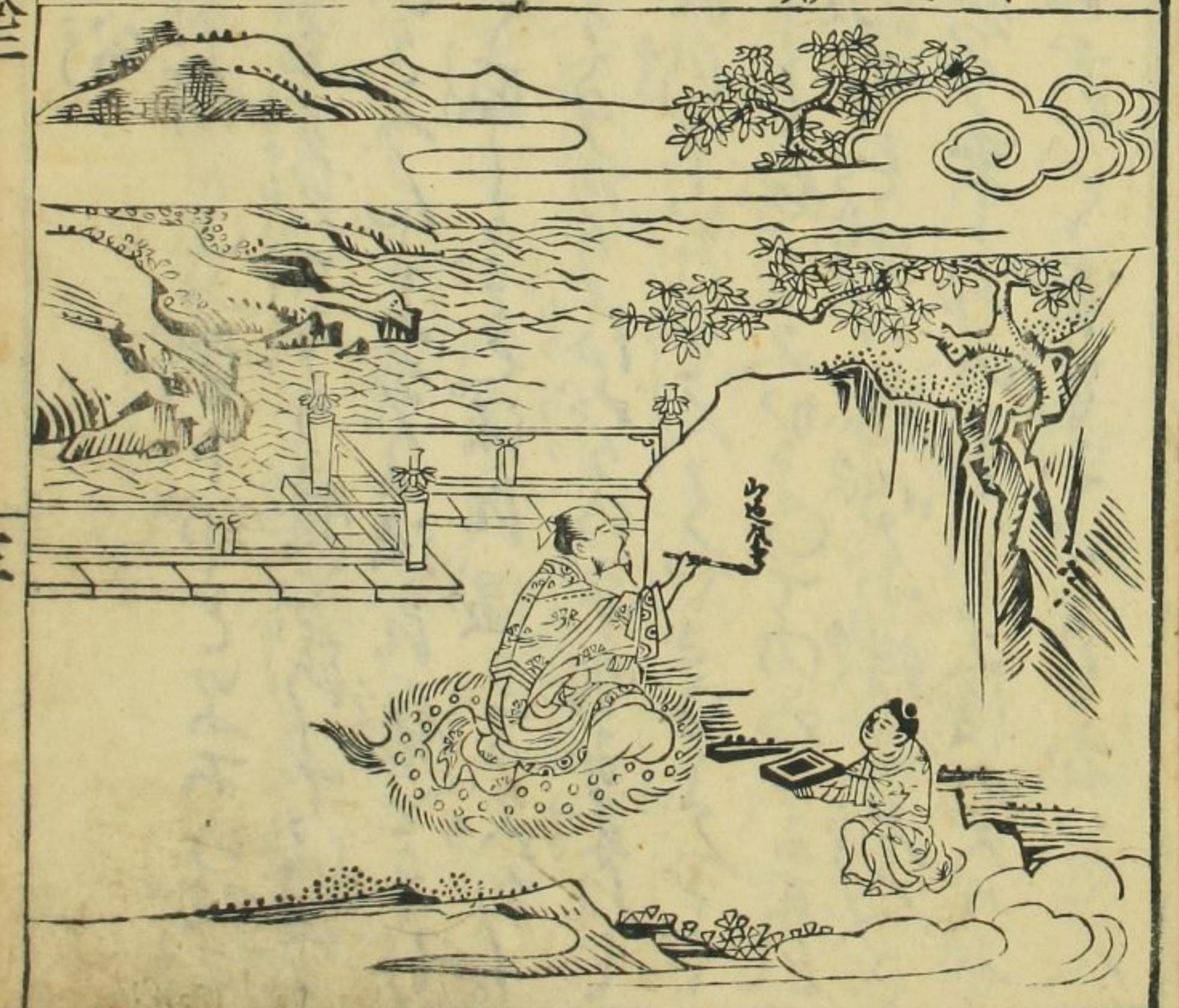
月をも

古し

才十六

王羲之

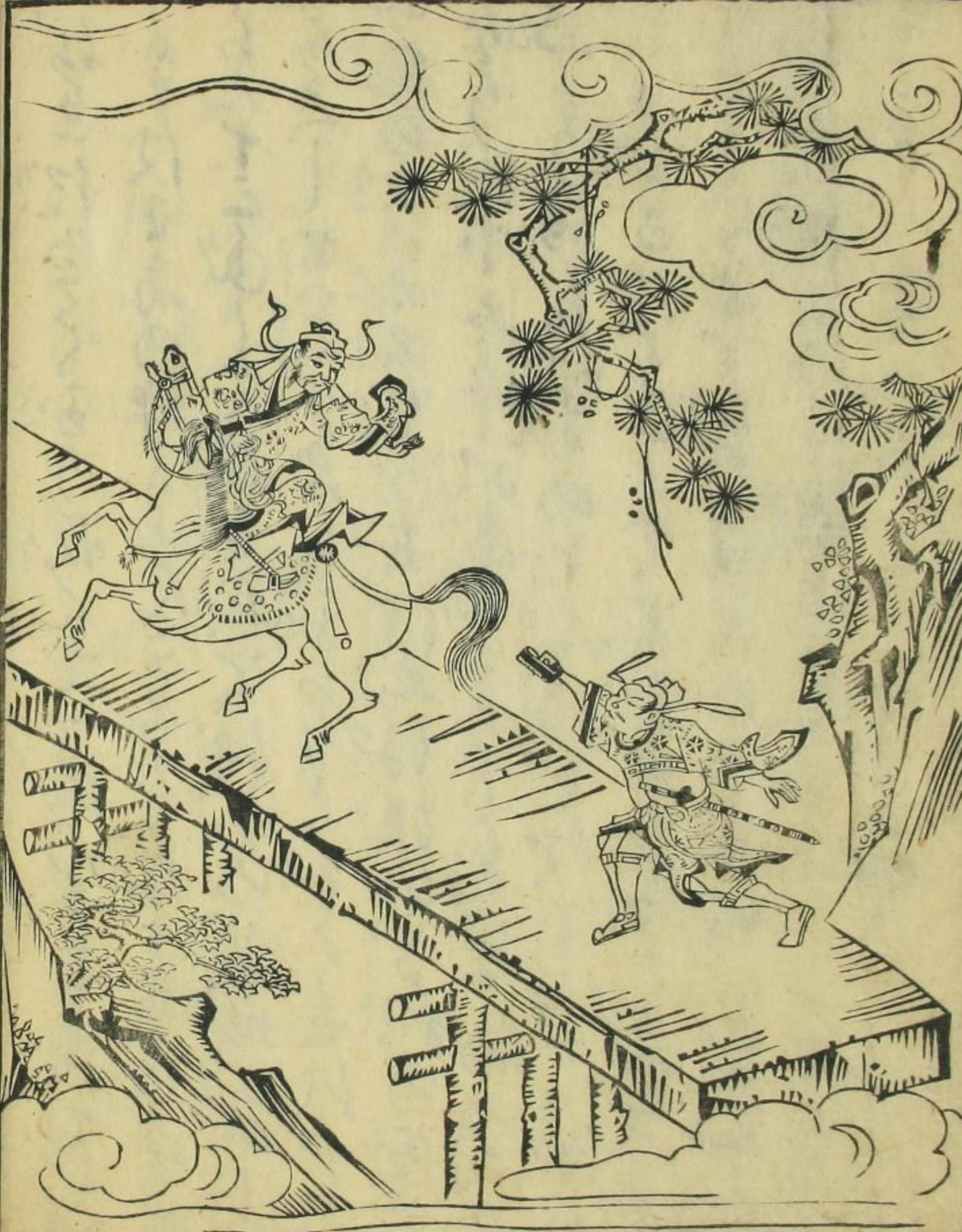
王羲之ハ晋の代
の人なり。文巧
小字書に能く。
行草書も努力
ある。石ノガク
云々。



黃石公

第十七 黃石公
漢の張良。字を子房とす。嘗て下邳と云ふの起止
みて老人よをす。毛皮ふくぢり。履とぬけてぬうよ
うやへひとひきみんとあかり。張良履とまげ
しつはとすらも取一きを。張良愠きうえり。
石公が曰ゆくゆうり。はむうの辛明ふまれを
ゆ。張良其勢に附一かだせんやこきどづく
あり。張良とぞとおる。又がむてのちるふれ
といふ。張良ふれてそ安ハ鶴鳴小姓。又老人さ
きどづくを。ぬう辛あひのとく。又後の又日ふ
まれといふ。張良あくわす小ゆくと安ハ世人

ほき経をく取り。傍んで一編の書と授て毛
よまだ玉泉の仰へるん。と下りな十年行て興
らん。十三歳して孺子翁と。濟水の穀城山の下よ
らうべし。苦石するからかうと立ち去れ。かの
一編の書は太乙望が其處也。は漢のうち經の陰を
なり。天下を平め志切りしと。一編の書を
ゆき。張良以爲のを人へてばと傳じ。傳ふ
りふきばれて苦石あり。かくゆり。翁と
いふ。こととある。張良死と。因げ苦石を



オナハ 金花石

金花石ハ。とくづらふ。おとづれ。と。ごく。強良。があり。
英石。あり。一徳。小法良。彼を。人。と。約束。と。たぐ。ば。
后十三季。あり。そ。穀城。山。に。達。て。一。宿。宿。り。
夏。婦人。六。と。の。女。と。わ。まつ。と。法良。お。告。て。いく。
漢王。と。相。さん。と。お。も。り。ぐ。か。う。ば。は。書。と。取。ひ。よ。
く。く。く。さ。き。ま。け。ば。鶴林。山。の。金花石。ふ。ゆ。て。云。
強良。是。起。ア。と。で。れ。と。よ。六。季。の。書。現。絶。う。て。き。
岩。ふ。き。く。せ。く。鶴林。山。み。は。刃。と。じ。累。て。金
花石。あり。お。と。ち。ま。ち。あ。く。い。お。る。と。因。どう。計。
引。く。く。ば。お。の。鉢。と。教。く。う。と。す。ま。



第十九 蕪武

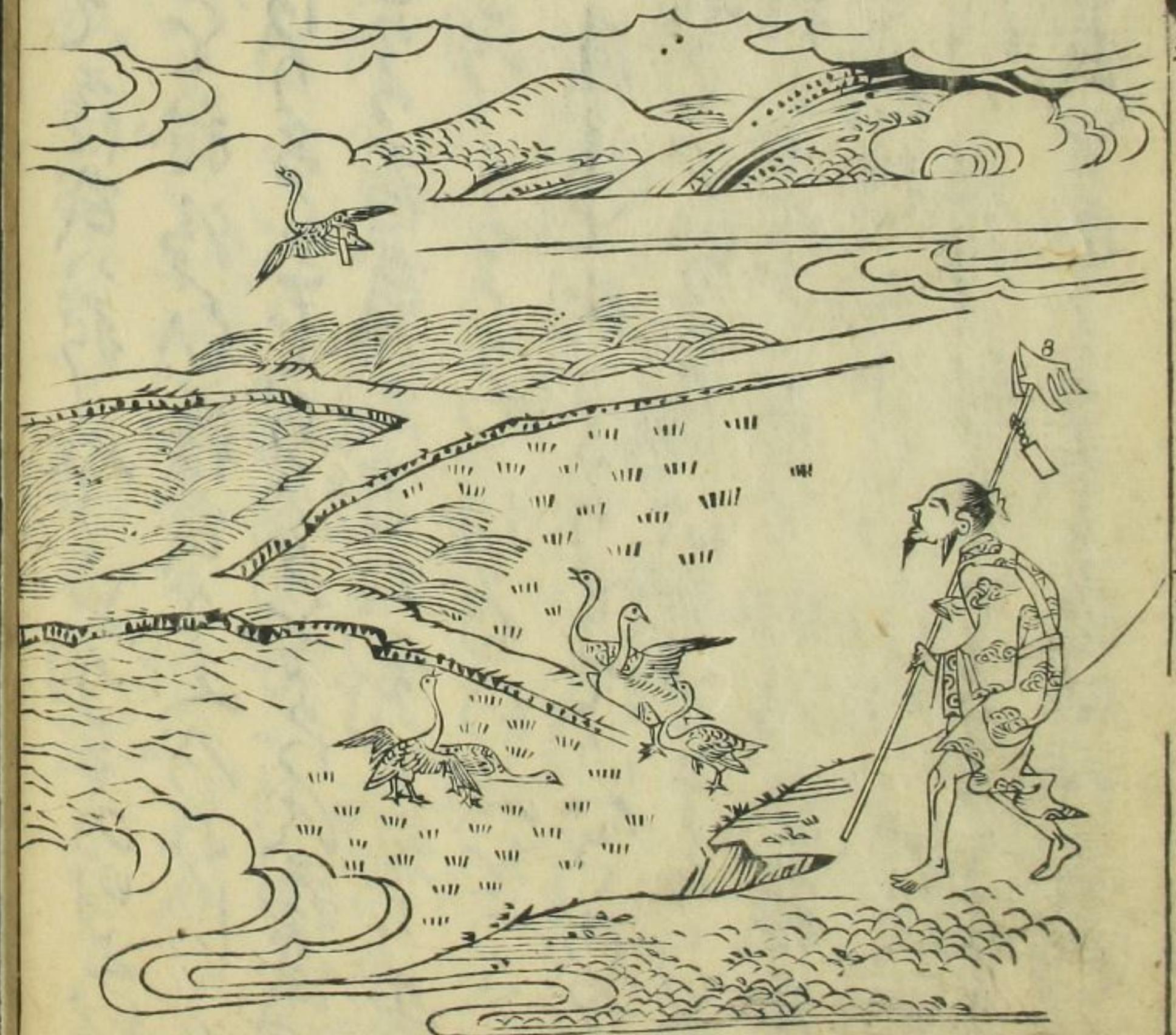
種武ハ前漢ノ武帝也。時大車の軍あわで。種武と付のねう。

後漢書。匈奴敗いつて。種武と捕へた窓
とく大車をとちゆに捕。牢にて是もどり
ため。食とりて。どれか室あるとばに山と
埋じたま。小じひするくうしうば。かのち窓
もうづきをくろ。種武はちと食う。ひよひて
ありし旗毛がふうもさどと吟く。自殺成
立りあら。匈奴死多う事と祚めあうり
小なり。種武と小國の將へうり。けい。華
と牧せうと。らきとどもあら。漢の官と
むとんじ。節とつす。よそ志のんで降れられ
たも。もう色變毛を驚く。十九年の

私とまうさん心のうちとおもひ。常にゐる私
あれど。こゝとあつてうづけふ。あつてひとつの
ものねよと。斯く翔せり。玉城のひ天を
通じ。うるあんげる右はとすてをひき。ゆ
めハ漢乃武帝。九代子位。即位。私と
服帝。さゝけり。匈奴と和親のすあり。
匈奴。沙夷。胡。匈奴。沙夷。胡。匈奴。沙夷。胡。
の内の人と。かくもま。ねづたひの軍
書あり。もとばかく。蘿武。ほやにけりと。
ことより。いまと匈奴。よきへあるを
あらう。匈奴。蘿武。とけり。人をさう。

信あると。詭て蘿武ハ死ぬと。その時よ林
差を引いて。私と射殺し。蘿武がまのありと。
かまのく詔。りうち。蘿武がま。よび。蘿武と
く。進。せり。蘿武ハ大官大貴と賜り。ま
八十銘。行。死。うそと。假るのとつて
しと。匈奴。蘿武と死。うそと。うそと
しゆ。常。あ。どひひ。は。い。能。と。うそと。う
ろて。帝。よ林。差。にくると。射。殺。ひ。蘿武
がま。あり。しと。沙。搜。向。い。ひ。く。め。そ。姓
者。と。か。れ。を。匈奴。智。あ。ま。ま。く。殊。ず。
小。み。ぐ。じ。蘿武。と。み。く。ま。と。ば。詔。され。ど。

御事と爲する事と
爲へし。あれば。
常惠が計を
生う。せよひ
行う。また公美よ
云う。りせぐ。
こき下り立て
のほとる。彼
どももたれ



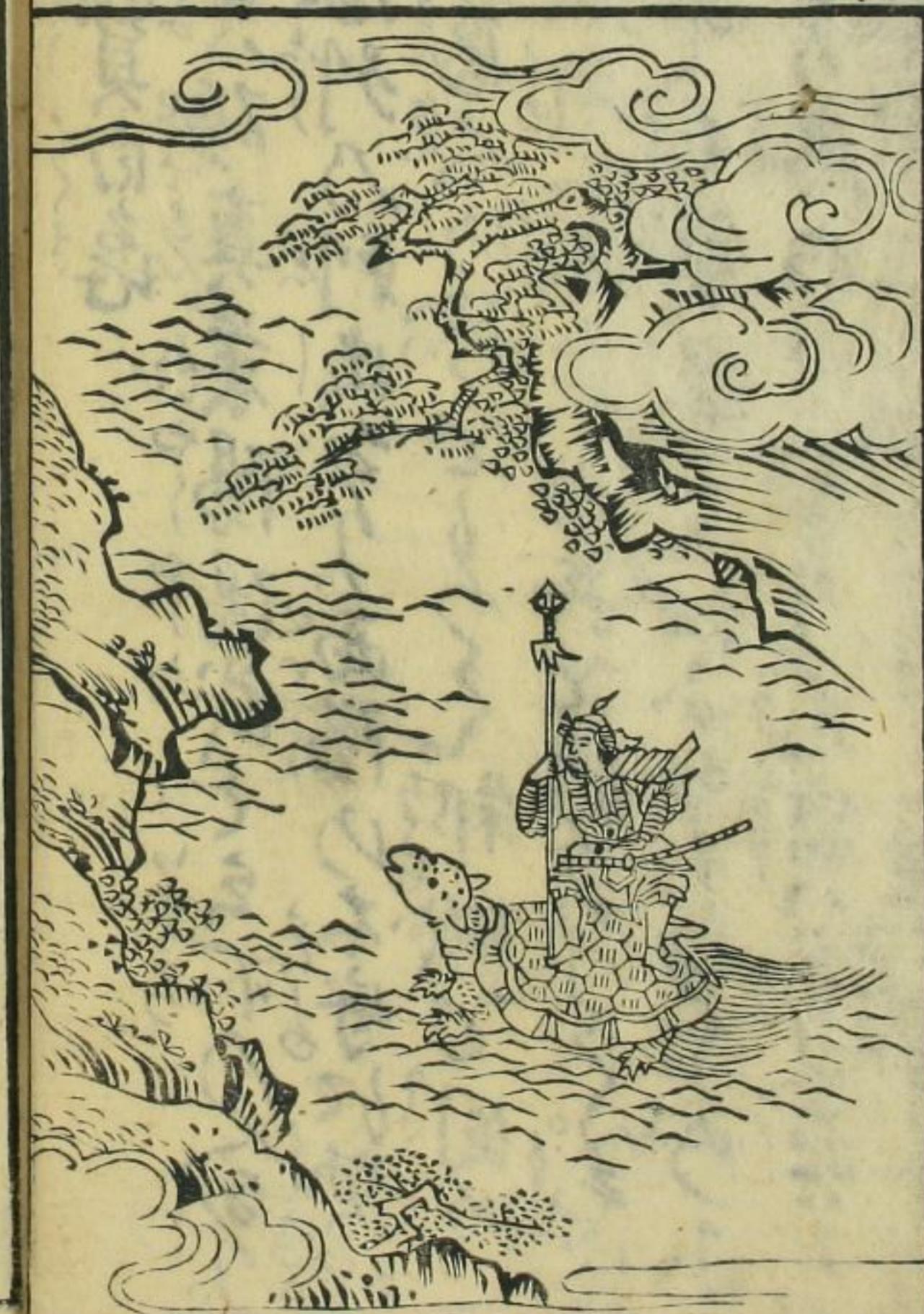
第廿

毛寶白兔

晋の毛宝字八硕真。永陽陽武と云。不り。西陽。
征虜將軍豫州刺史。西陽の太守に焚峻
と。りふ人と。一萬人の兵と。りく。邾城を固也
時。石虎と。り。有二鶴。城の兵と。けり。毛宝
と攻城。うちて毛寶退く。に小ももし。か。小
鶴きて。羽。者。大。あり。毛寶色又。至。る。
毛寶。幼。武。足。可。り。時。毛寶。内
の布。みく。白兔。と。貫。か。く。あ。ゆ。う。て。江
水。も。の。内。と。けり。毛。人。毛。宝。に。あ。く。と。けり。
邾城。毛。宝。と。同。く。ち。て。

江よりもしくとれ。向くからかわらぎ。ちうて
のとふあらとまえて。あやあとアヒミを。は龜
あり。ぬみたとへだくらうあり。な鷹。うひーと
のせく。东の

峯。小さき龜。還とあらす。龜の背に起
たとめり。と。え。と。まく。と。まく。と
かす。と。まく。



曾婦

第一 齊のまゝ。曾のまとらんとまう。時齊曾の
枕。一人の婦人のまとい。然我よと捨てふづ
齊。武士女と捕つ。冥女のいつばい。け
る。我のまう。陰。う。我子と云齊の人
色とまうて。かく。かく。かく。女とみら
り。齊のまを。かく。かく。かく。かく。
とやく。ゆ。曾のまと。憐みて。絶えま

直す者是

徳ありとや



サニ

潘國

邊國ハ國の穆王也
臣下也穆王の時異星地小為く八足の馬
と化す駿駒驛驥驅駒驥驅
驥駒。地中を驅
ハ尾も奇あり。安乃
臣下邊國とすれそ
馬の尾とやらまく。
君主の西へ
されば穆王遂辭



あくまく瀟冥と名ふ。小放さうと。而後瀟冥が科らひ
半とからぬとけりと。驛があるものとしにゆておる。
若山よ送らう。瀟冥驛よりくゆつは。山のみ
めとせひ事駒。故ふさうとぬみかづりと也
堪笑。華山満慶士長あ路と倒騎駒とてす。

廿三

賈鳴

賈鳴ハゆふめあり人あり。あり付駕馬小の
色くろふ。鳥宿池中樹傍推月下門と云ふと
照ねたゞ。但僧ハ拵と云ふます。もおちだ。
らやさんかくやあんとあ。入くやう。一
律退之車に案。臣從といきゆくひひふ。高と

入れば。一人ゆるふを多くあり。よどで小馬ま
ごとく代り拵をよこし。太官のむ根藉ありと。
臣下こうきと致うんと。賈鳴をどうき致んと
もうとらく。假かり推の字と。故とふ字と
かさんと。ぞふつき。そのうふ。律とく。まく臣
下れ枝と制。一ゆいふれあうと。ふ。賈鳴を
肴ふあうば。それが、いんと。ふ。賈鳴がのゆと
かへ推致の字。まく。お。事。ア。入く。太官と
さんと。べと。ふ。律退之。駕と。和車と。く。敵
の字。住かんといひと。と。賈鳴。一と。謝と
き辭。まいり。故く。一字。全。賜。ふ。遇。律。云。推。律

故の字に改らる
題李凝幽居

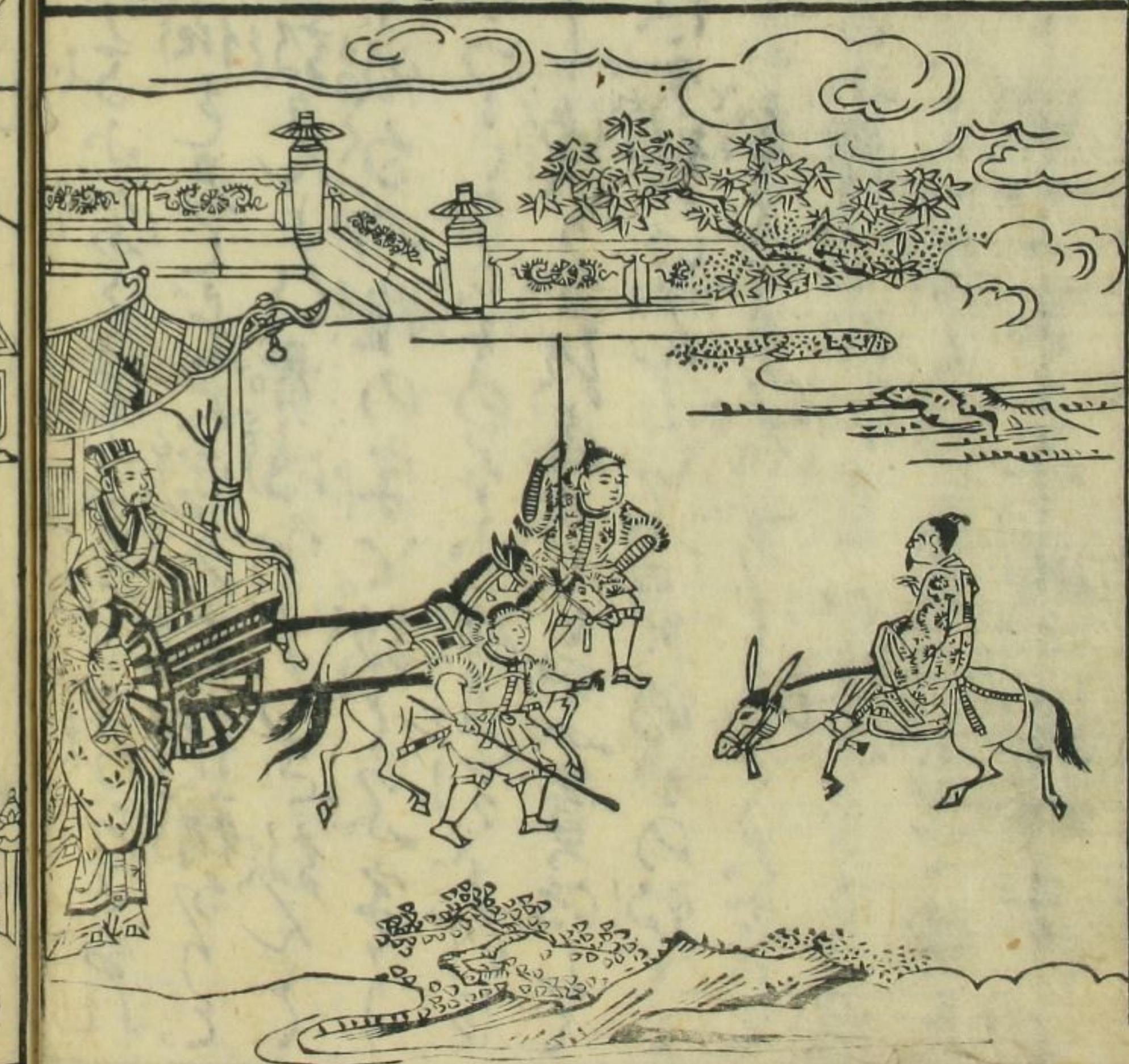
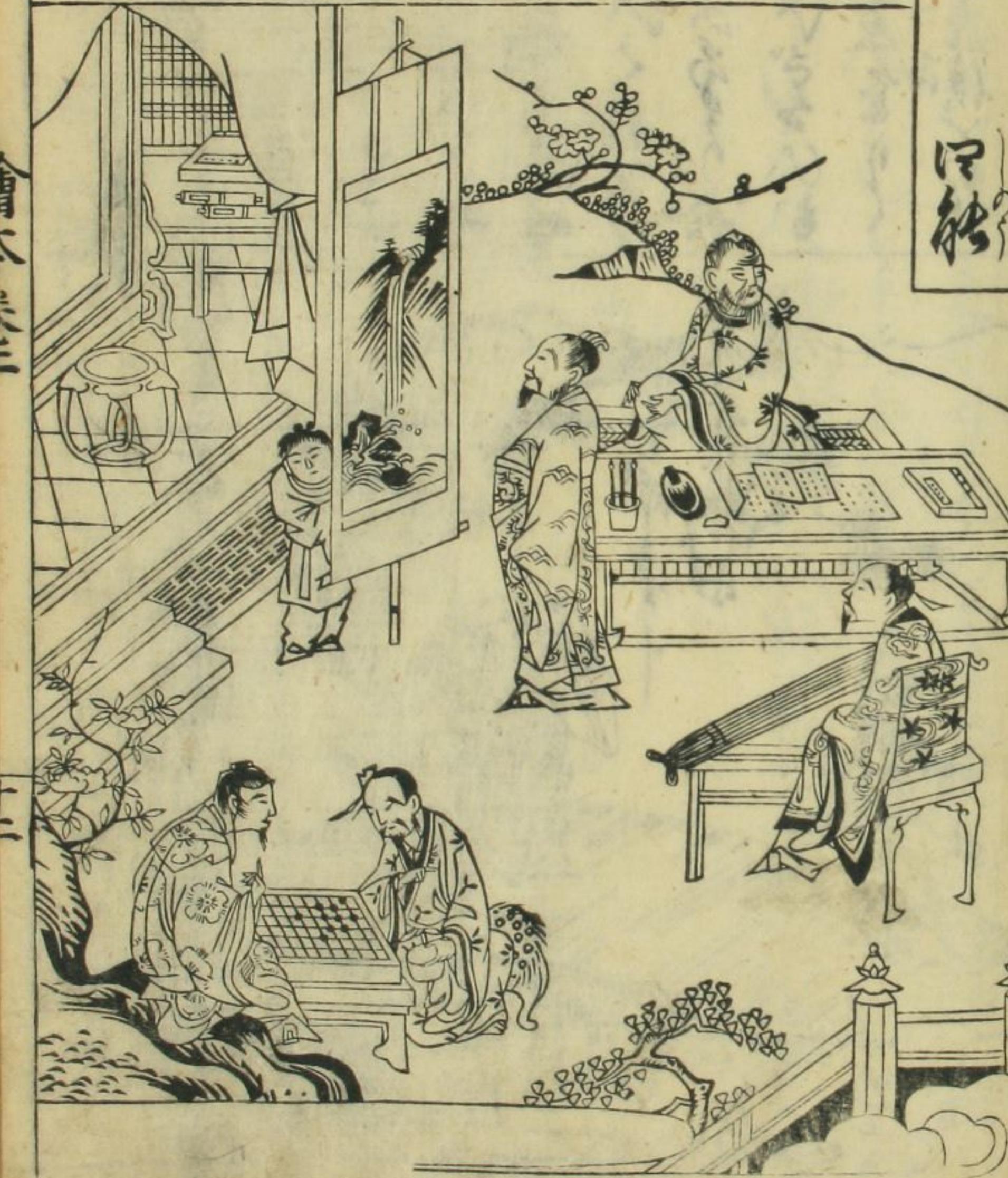
賈鳴

閑居少隣並
草徑入蒿園
鳥宿池中樹
僧敲月下門
過橋分野色
移石動雲根
背去還來此
齒朝不煩言

廿四

四絃

琴碁書畫



サヌ

三笑

三笑とハ三人笑ひ。三人ハ惠遠は仰。陸後辞陶

圓のそれから。車をば仰虎溪

山小こもつゝ時。

陸後辭陶

あひ入る酒とす
し辞のあまり東
をといざるひあ
けづぶ車とりと
うち虎溪とす



と勢ひむ。虎溪のすもわどと。虎溪の橋と越し
くば二人ともと。ちふ多めり。ありとあらと。ま
とかり。け三人。岡代う。ひ河とども。ひとすと
びり。うちかやうく。

共

酔及三教

三教ハ儒。叙道。又。れ教。も。傳。ハ孔子聖人。と。相
ト。仁義礼智。信。天地常道。人。と。ま。と。く。學。と。ん
て。ほり。く。び。これ。と。ま。ぐ。文。母。お。考。あ。と。直。考。行
天。下。平。う。る。も。辭。乃。教。か。り。秋。ハ。叙。迦。聲。と。ま
て。殺。生。偷。盜。邪。媒。高。波。と。飛。し。め。傷。行。ハ。キ。常。を。

寂滅と樂ると示し。心性圓極の教と施と。ゆきまに
方役と修達人。眞理と従。啓悟と接せり。接せり。
道。老子とえり。金る事。と示す。大過廢れて
仁義あり。至人死。也。益色。何。と。一派。変て教
は。道理と。たゞく。確。の。も。と。描。孔子。と。仲
尼。と。確。と。ぬ。則。酸。那。と。や。助。し。と
方。役。と。ね。け。る。教。を。と。だ。確。と。ぬ。と。ハ。耶。し。
せ。る。教。を。別。老子。へ。一派。変。つ。と。教。へ。し。ま。而
と。皆。に。と。ち。ふ。教。僻。と。う。と。ば。二聖。人。え。ま。に。の
行。く。て。味。の。ち。づ。の。あ。い。ば。え。一。盡。の。解。あり。教。を
本。復。か。れ。と。道。よ。行。ご。ニ。り。ん。何。との。能。を

す。ぬ。と。く。嘗。至。人の。わ。あ。く。や。と。く。そ。う。時。を
え。と。見。く。役。と。ね。と。ね。と。用。と。膳。し。齒。と。く。手。を。う
て。銷。ふ。これ。か。ん。が。是。未。國。の。九。代。も。人の。の。在
れ。か。一。義。之。が。毛。勞。み。昂。ぐ。流。通。風。の。宣。被。る。
魯。れ。格。或。皆。か。り。と。り。と。ど。と。行。か。と。一。代。の。能。を
あり。は。等。の。事。に。と。ま。う。と。と。と。と。と。と。と。と。
美。能。よ。僻。み。く。と。ふ。う。と。と。と。と。と。と。と。と。
風。よ。廢。此。じ。古。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
酸。役。の。理。か。れ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
や。き。れ。う。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
か。ん。う。と。と。と。と。と。と。と。と。と。



サセ

商山四皓

高山ハ山の名也に皓と、人の老人也。世人、
東園云姓ハ唐字、宣昭、莫廣云姓も廣莫不。

小高と、角置也。生始ハ周易ハ術圓室も展也。
緒里季也。嘵向髮のぞく人、うき紅皓も云
皓ハ高と、とじて氏の高と、解あり。方角あり
支鬚袖も、鬚碁不啻、漢家安与危強
被侯留破、曲局一子声宜开、亦天涯。

兩舅ハ二人の名也。赤眉也。吾も豈むけ也。大人
基と、うて、あ、人、ふ、て、こ、ゆ、め、つ、く、り、も、つ、ば
と、い、は、ほ、あ、の、豆、ハ、ら、だ、と、お、も、り、だ。さ、ま、と、ど、も、漢
え、が、裸、ゆ、く、山、と、も。漢の惠帝、れ、臣、下、こ、を、
う、も、れ。す、か、ハ、基、と、う、り、色、あり。も、付、豪、毛
ひ、ぐ、て。竹、と、風、れ、嘵、向、の、こと、す、も、り、す。此、丈

をひそめ
おもてのあ

いとくわ

人をうしご

秦の乱と

避て高

もふ時ハ
伊豆郡
トありて
豈く行て

七賢

サヘ
七賢ハ。嵇康。阮籍。向秀。列儉。山涛。王戎。
是をうち晋の乱と題く竹の林にかくれ。琴酒
とりそくたのみともども。はら侍王戎ハあくつ
のうみんハ。游りあとせうことと。み聞
み思ふと。いと
大和音ノ

いじくの七のや

かりうむみをほす
人をふと
りうきよ



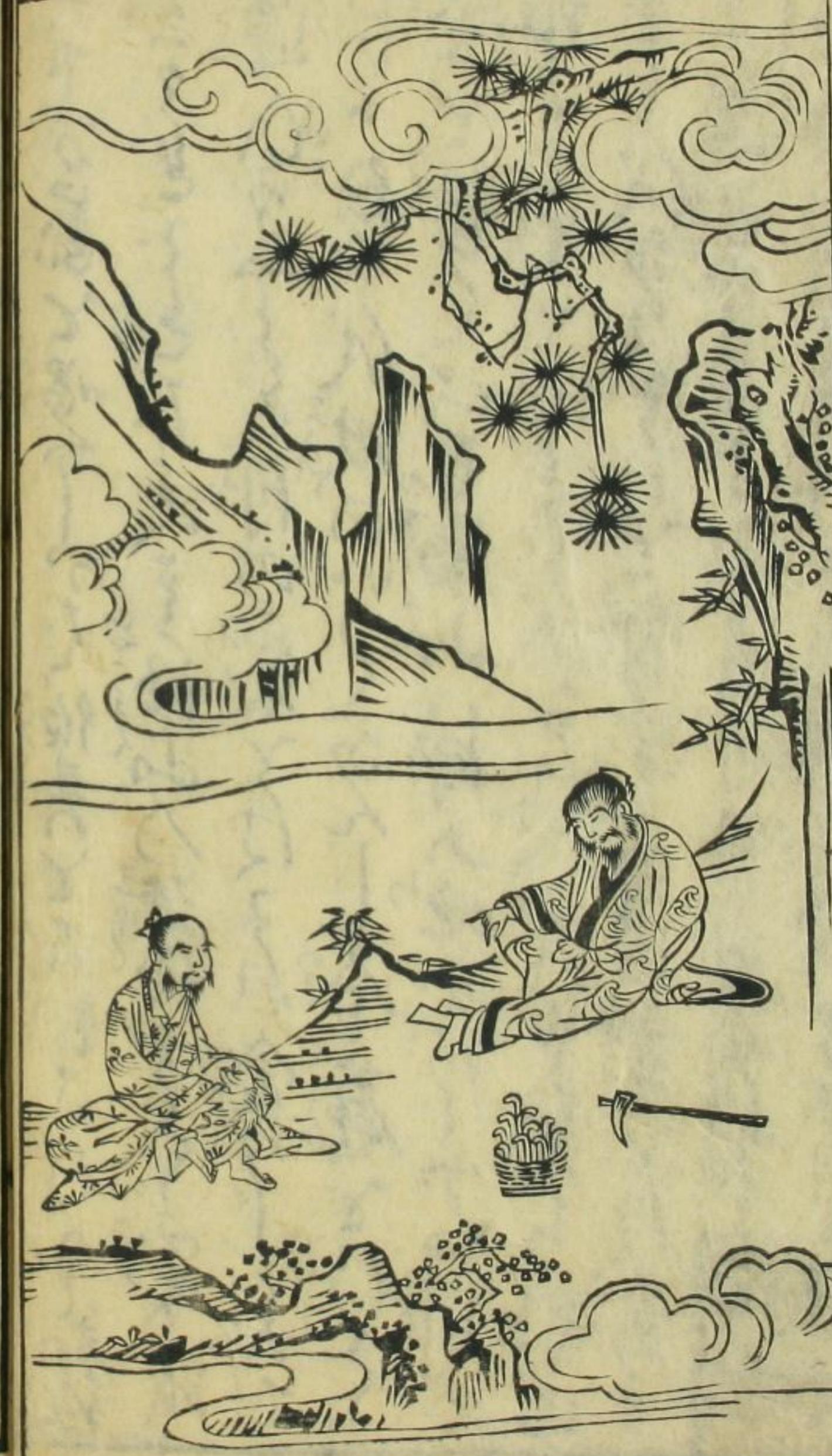


せぬ
伯夷叔齊
伯夷は先。叔齊ハ弟也。父孤竹の君。老死え
とせし時。いぐらもむれあん。や。叔齊。み代と傳ぐ
。と。言と。き。ト。タラ。叔齊ハ。いつふ。お。言ひ。と。之。
兄伯夷と。を。く。代と。嗣へ。事。あ。べ。ぐ。と
う。く。位。す。即。ど。伯夷ハ。これ。見。あ。る。と。そ。と。之。の
食。と。そ。し。く。代。と。續。と。理。み。や。く。と。べ。と
え。く。よ。ふ。徳。儀。う。う。が。や。叔。齊。あ。り。そ。う。ん。に
あ。ぐ。と。前。湯。山。よ。か。く。れ。ぬ。り。伯。夷。よ。れ。色。と
う。に。歌。わ。ん。と。是。も。そ。ゆ。か。づ。り。歎。と。う。て
づ。書。あ。し。が。つ。く。か。じ。風。下。歌。あ。く。ゆ。さ。

と立く位と破ちし其辰敗のをよ。殷の紂王
惡逆无なげて人民憂へり。アバ。武王を
あつめ。ことと亡さん。伯夷ひきと。姜子牙と
いり。既うて焉と弑じ。ハ紂が歎はれ。馬を
そのへる。文王崩御ある。以て。喪のやり
子行。ソヤ。毛忠ま。ソヤ。伯夷。子房。小
武王。射ひど。もと。よも立す。伯夷。子房。小
毛。子房。子房。軍士。こそと。もと。毛。義
と。害せん。こと。太公。望。もと。毛。義
人。う。射。と。毛。義。人。う。射。と。毛。義。
死と免まく。歸つと。毛。義。人。う。射。と。毛。義。

天下万國と唱へ。か。伯夷と石。毛。義。人。と。毛。義。
立きと。たゞ。山の蘿。も。栗。城
運び。と。月の栗。と。ば。それ。食つ。と。去つ
令と。勢。と。彼の。いつ。かんじ。今。蔚。と。わ
か。と。毛。義。人。と。食つ。て。月の栗。と。ば。食つ
ふ。極。せ。う。と。て。か。と。蔚。と。食せ。ば。と。七。月
子。行。く。ぞ。死。と。毛。義。人。と。胡
曾詩。か。首。陽。山。倒。成。平。地。始。應。無。人。說。姓。名。

まくす有陽山はうねく年化とあらじる年化
貴みへつゆ山やあらそき山はち山あり



龍門

三十
山は大山の成まれ維るりて。富嶽山はげある。
大華山とよむもを。け嶽は禹門津門ひつとく。三
臣の嶽ある。姫ハ一重うりしと。夏禹王の時ニさり
作りうす。あと六桃花多一月三月
小魚は流の下すあ
つま。のづらとひく
桃毛の水と春ぞれ
小花とくとよす
りくと



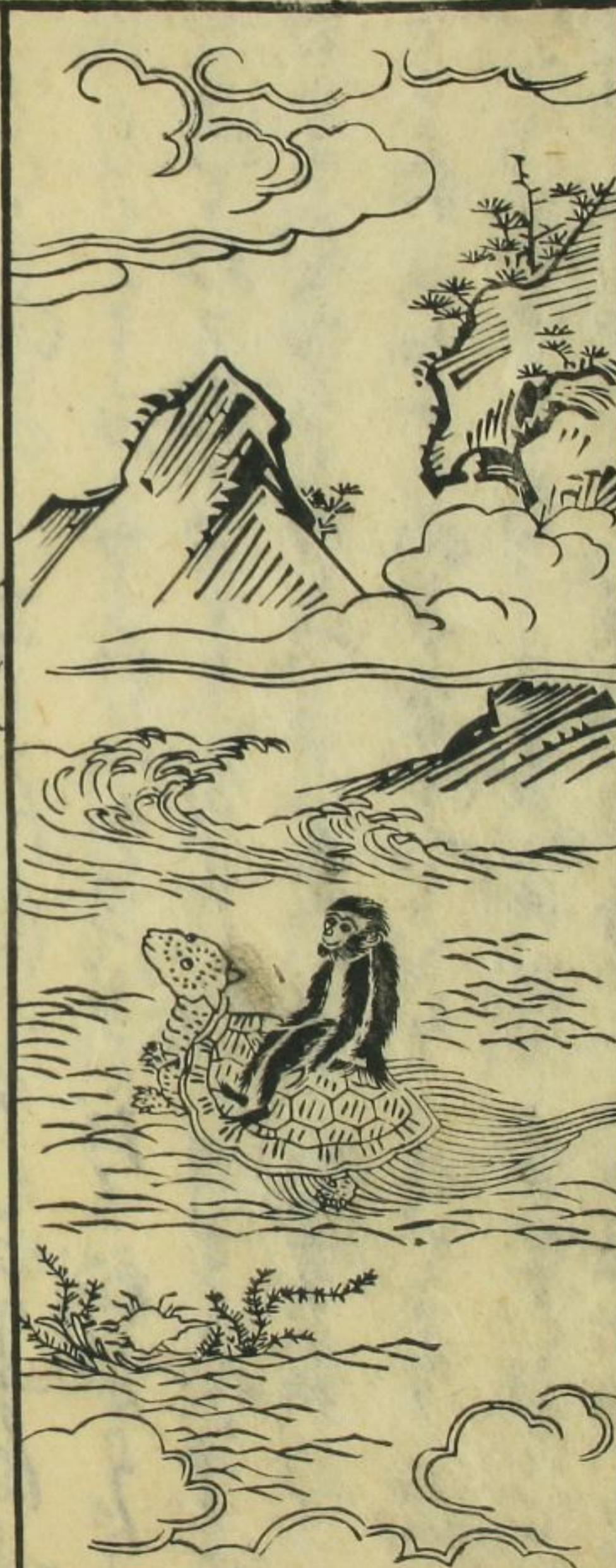
卅一

猿子の毛

猿後秦。鼈背心肝掛樹上。世の猿ふいつく。猿も
ひ鳴高き侵さむとく。猿の生體とやまされ
る。鼈也隣へあづる。猿とさがりうる。己が甲にのを
て。猿え家へうらまう。たみそ筋内も会猿とみて
は。猿むじ。猿もやあくよゆへいふとひなとも。あ
月げえくといしく。猿も今生附とくらう。あれ
とかくしてゆくとすりひと。猿こととくかう。
もやせんとあぐりうぶのうちじれをかく。猿
てたみそじる。じその時御内がつるふうんじ
ててねそり事とゆく。猿もくはみやとどく。猿

ええく回りよれど。御行ハ本のどに掛軸を
今わきとてこゑ年れ。こゑと様もくらと
つ。御行もと神経ひきとじとくとくの行
くまのとくもう。猿ハとぞかす角で
ゆりくらしや。うしげはうられきり神すう。う
かよとねつきてつよ小う。物うりり寓言あわ
くもじくもじ。うしめうらり寓言あわ
くも。禁もく。物のうすけとあれど。うれ
小筆すまきとだづまや御行とつよのかき集

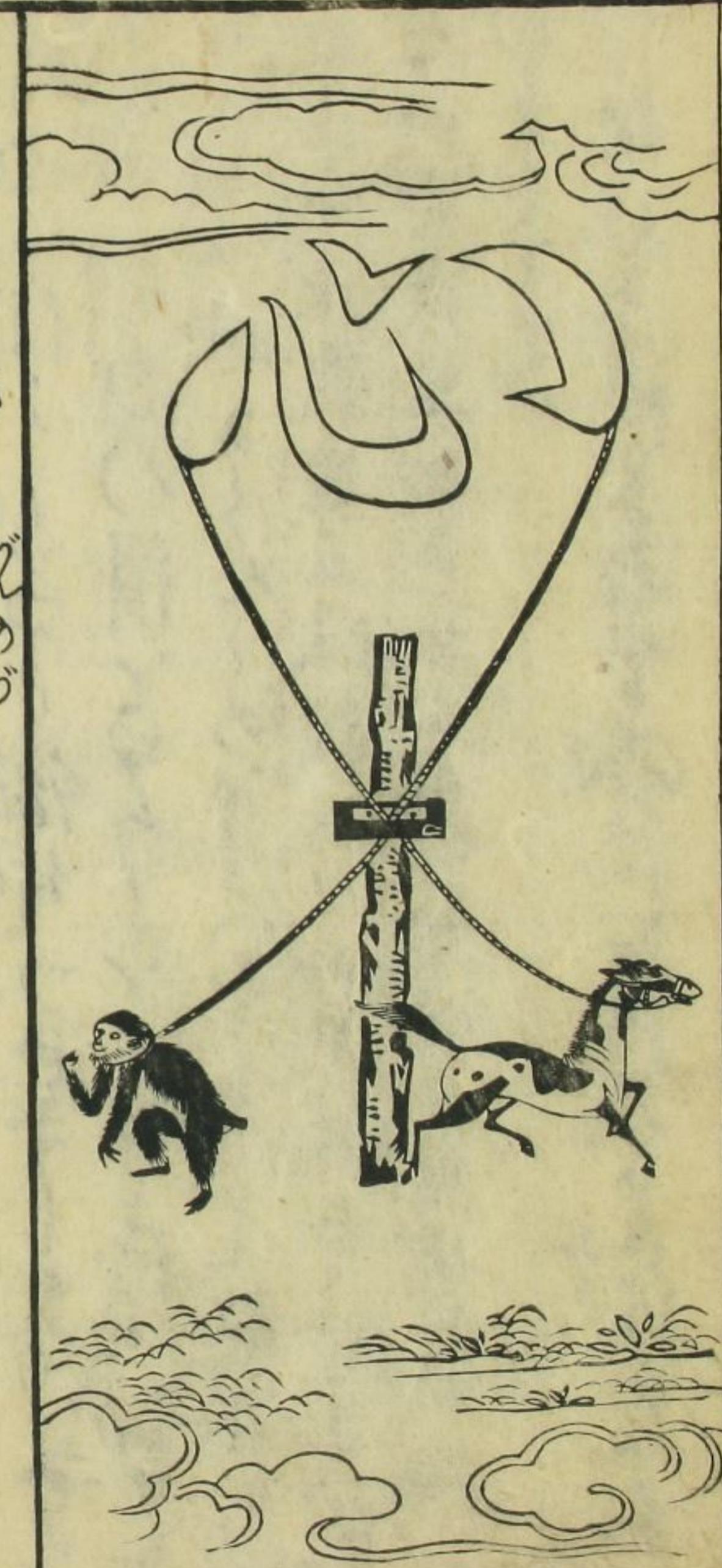
やく世後ノ風をもとぞれたら



卷二 意馬心猿圖

いじきんのう
きこむふ様ハみれんゆくゆ。徑きよとひ。ちゆ。
散乱の心とば駆れさりぐよたゞく貪欲の心とば

猿れ葉と毛とふとふ。それどもやさこ馬。大
巣の境よりとも。猿ふ闇のねむとつづく
能多夜ゆきとす。つるふあひよゆりかく。
忘却れ強願の猿とば。纏ゆくられと織り。
金きめのねくとくと統付。つるぎとまがふ。
金きめのねくとくと統付。つるぎとまがふ。
り一いはせうのよ。やくべ。觀徑み白
故心如猿猴遊五欲樹故心如飛蛾愛燈色故
心如野鹿遂假色故心隨万境轉く所實能幽
やまとく小
ひれあはれたとへあじふれぬよとゆりする



三

一龜二鷹圖

是へトモアド油^{ハサミハ}をもひうるテウトモアド。或^{カタニ}旱^{ハル}魃^{モモク}あらひの洞^{マツリ}放^{ハシム}る金^{カネ}アヘモチ^{カミ}ん。或^{カタニ}龜^{カタニ}乃^ハいりく^{アキ}鰐^{カニ}を油^{ハサミハ}をもひうるテウトモアド。

とやう。我^ハもひはよくとく絶^{コモカキ}別^{カタニ}ちふ^{アシ}まそ
えゆくとふ。るきのらば、龜^{カタニ}もつまくゆ^{アシ}ぞ
とく。水^{ミズ}ねと龜^{カタニ}よくらへを。いとれすあを
ともりとらむかうをゆそとへ。よきりのる
は水^{ミズ}ね枝^{ハシ}のあ^{ハシ}のうそとくソ^ソ。部^{ハシ}のま^マとさ
くろ小^{コロ}假^{カタニ}あるまう。ととと身^{ヒメ}と。よ^ヨのぞ龜^{カタニ}
腸^{ハラ}と断^{カタニ}魚^{カニ}とさんと、ありよ。こちつゞ^{ハラ}と。に
とひづりと。穿^{ハラ}と。あくと。わくと。からと。に
と思^{ハセ}一^{ハシ}か^{ハシ}一^{ハシ}と。つねすもけり。此^{ハシ}也^{カタニ}。
ともゆきだ。いれもととつみ^{ハシ}。比^{ハシ}鵠^{カニ}あり。比^{ハシ}
鵠^{カニ}小^{コロ}ひづりまたとつみとよ^{ハシ}。これハ

うのうひにねばらく。何でもいふねうきなり。あれども。郊のよゑれあすまにきぬあり。またそのとくはややよとつふひきびし。子育こいくが多言を教おとす。一默だくみはあうとやうとや

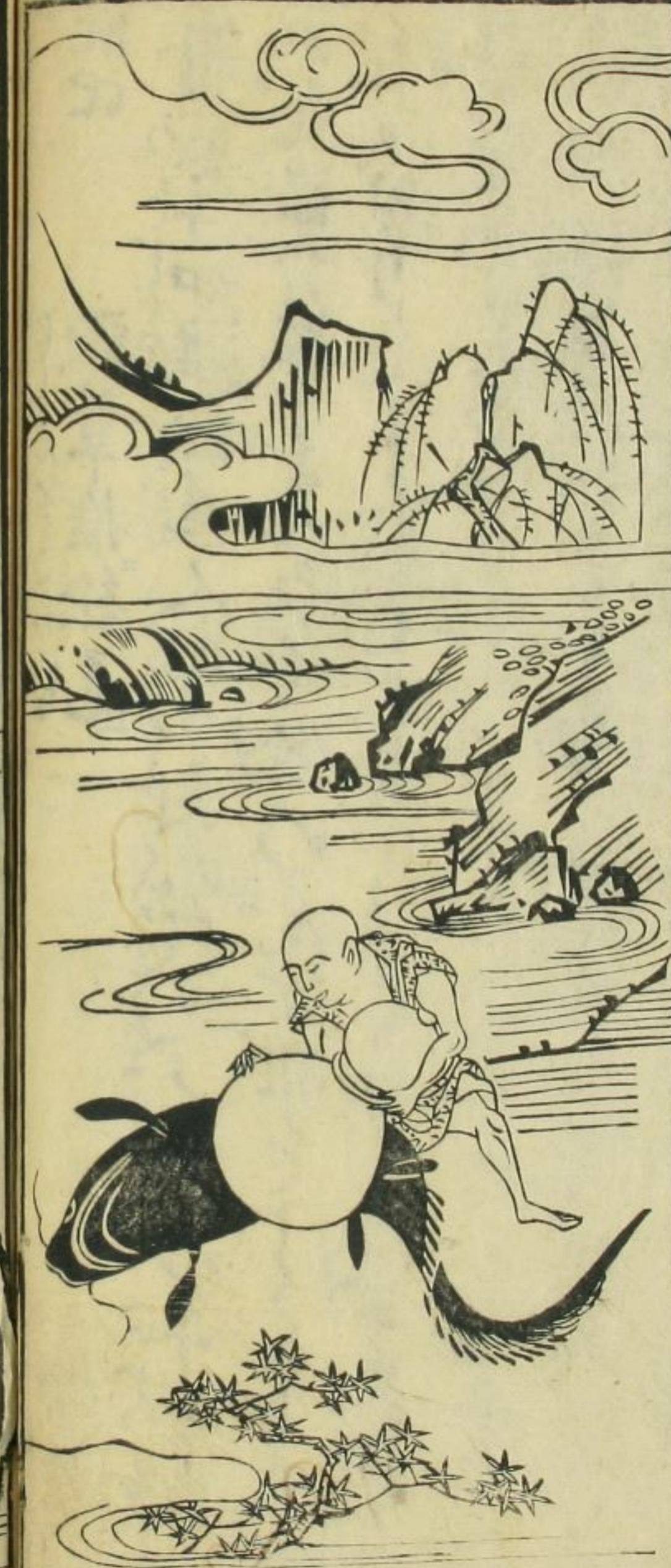


所に

瓢箪推繪尾

葫妻子如推繪尾人同十支九教之。人乃ノ平生交
れ毛致ハひやうんかく繪の尾と推おきとぞくり。必
とちぢりしきばも。又まことに。事と。やハ
九りふりのあくと。ふきとうづくわうのこ。底そこかくた
がハね理ことり。ゆきじ易えハ變易あき。かづれとぞ
易きとぞく。天地のうき。あきとぞ。變かわる。かんご
定めあくん。とを川せせの浦うらとぞ。船ふねやうなう急いそ
遊あそとぞく。恨うらぎも。やしきとぞ。かづりかれど。假かり金かな
年とし秀ひでえ人ひと毛致おき。あつとぞくたのひづく。よ
年としあく。毛致おき。えよとぞくふのとあつとぞくほ

まわね。珍求あらぬたれ。色多し。ば狸（アメニシ）とあらざ
るのハ。智（チ）とたのミヤと丸つ。寵（モロコシ）とたのミ我と
たて。もつと色たぶ（タブ）、火（ヒ）をあら迎（セマ）りて歓（ラウガ）
され。いじ思（オモイ）をうと謂（ハシル）。



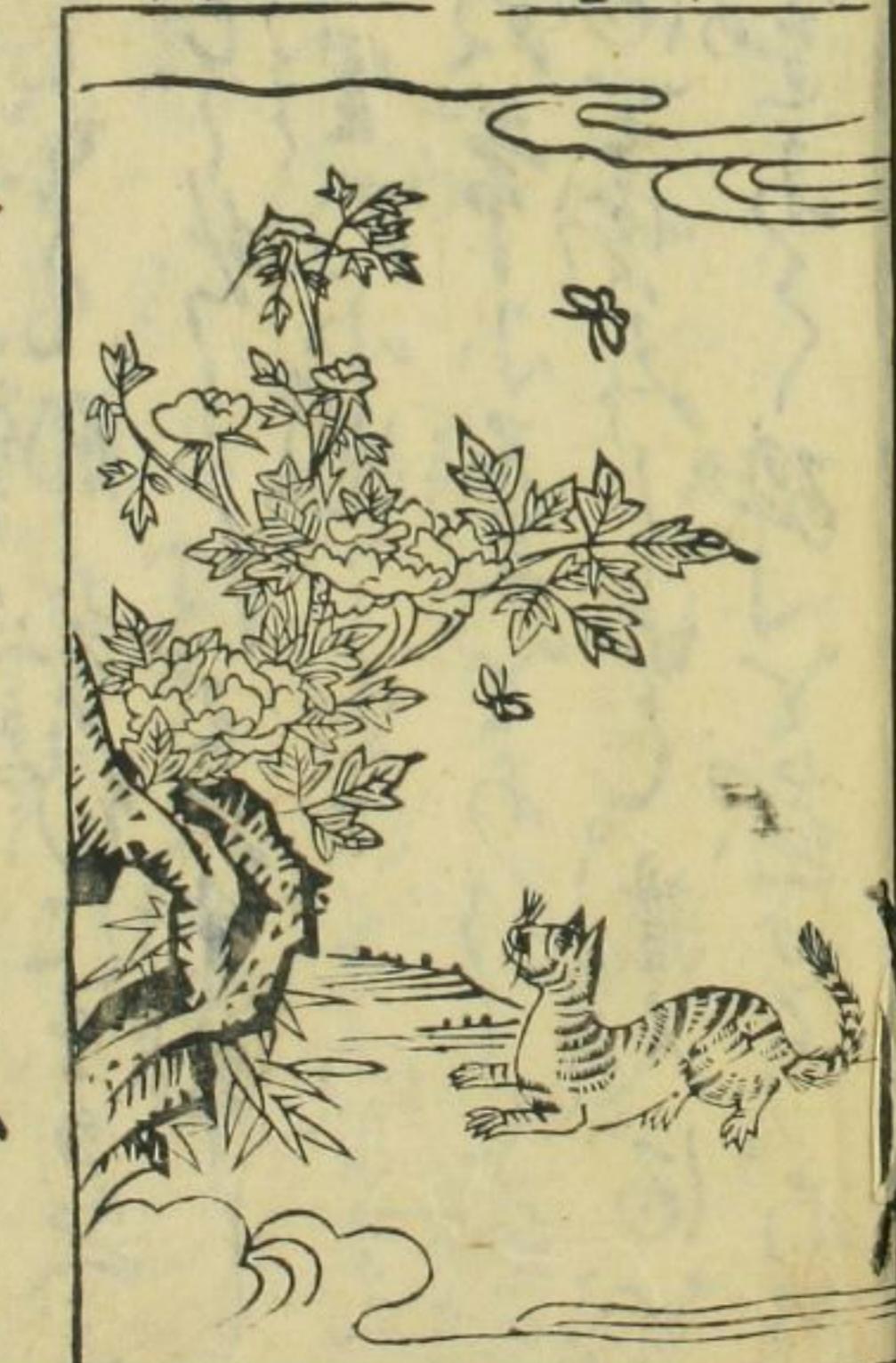
世五

牡丹睡猫

牡丹苑下膳猫（モクダニイシモトシヤシネコ）と在

蝶（テフ）とつう。かきが

ん蝶（テフ）とある（アリ）。



世六

陶淵明

陶淵明（タケイムシキ）は晉の世人（ジンノジンジン）である。富は元亮（ゲンリヤウ）といふ。又家
の御（メイ）とある。御生を承（シテ）ふとくづくづく。則

六御先生の侍従。はな久人陶達磨とす。あ
は、洞門が修りしゆく。奥と東嶽の下の様
懸けんとて南山とて。北とて。北は南山とて。
此の二より此の所を磨きの直持人身に
性れども。うるうる。とて。あすからと家多
にて。宿よはぐしがも。那をまわにまろくよ
と。更官こととし。と。ば。これ東革し
織とわらんと。紅室の小鬼と。と。みのよま
あらやとて。と。め。常小葉と。あひて云遷
とひあり。なむはと。ちよ。め。識人はと
移りあり。勧のを。かく碎と。あせり。あれ
れめちありと

おりふあひだ

王弘陶洞のう賞。やうとと。と。あらて。これ
見。ほ。のは。と。き。承。あると。さうと。對。め。う
と。あり。又。洞門が。つ。と。い。ゆ。まの。辟。る。琴。書
と。た。の。あ。ん。で。と。く。憂。と。消。と。と。う。み。よ
法。う。の。喜。琴。と。高。明。ま。え。と。あ。の。ひ。時
あ。げ。琴。と。と。り。と。と。極。て。い。り。と。琴。琴。や。れ
れ。と。あ。く。じ。か。ん。と。ほ。の。と。の。か。と。あ。ん。せ
と。ひ。く。ま。せ。と。ハ。琴。と。ひ。ひ。ぬ。と。う。ば。法
を。も。と。と。そ。と。も。と。の。洞。み。こ。う。か。ば。那。



七

豫州府

五柳先生本在山 偶然為客落人間

見月多歸思 自起用籠放白鵝

秋來

私もとよりのものあり。さふらひ小まのをかわ
えりとつひあんやうに。ゆくゆくひとも月よひ
とゆきちや。まきて他ひゆるいりとおとと
おまみだ。と小まののまやかに。あまくと
色なじめりりすんと。そひやねどもせやらえ
ゆきまきころとく。おれとうとほけのはまろ
はまうくと。おれとくとくとく。かくよ若
らんと。おれとくとくとく。おまのむろか
らむらやう。やゆくらもとくちばく
あむきとくとくとく。あくまくのそれわの月情

綸

